

主題

「リゾート気分のショートスティ」を目指して

副題

多角的サービスを提供するショートスティ

ショートスティの活性化

研究期間

8ヶ月

事業所

上石神井特別養護老人ホーム

発表者：澤田 知己（さわだ ともみ）

アドバイザー：竹村 恵子（たけむら けいこ）

共同研究者：赤木 美智（あかぎ みさと）

電 話

03-5903-3051

メール

FAX

03-5903-3052

URL

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

上石神井特別養護老人ホーム ショートステイユニットで

- ・ ゆったりした環境でリゾート気分を味わうことができる。
- ・ アクティビティが充実し楽しむことができる。
- ・ 希望によってはご家族も一緒に泊まることできる。

《1. 研究前の状況と課題》

これまで私たちが関わってきた従来型特養のショートステイの生活はどちらかと言うと特養の入居者に埋もれている印象がありました。

利用者の心の奥は

「楽しくないな」

「早く帰りたいな」

「することが余りないな」

「家族の事情でやむおえず・・・」等々

大半はこのようなお気持ちだったのではと反省しきりでした。ショートステイのサービスを充実するにはどうしたらいいのかを課題としていました。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

家族の都合で致し方ない・・・気が乗らない・・・ショートスティではなく

目標：

「リゾートに出かける気分のショートスティを確立する」

居室はホテルの発想で環境づくりをしました。時には家族が集まり同室に泊まることもできる。ゆったり落ち着ける環境を目指しました。

個別に合わせたアクティビティで楽しんでもらいまた来なくなるショートスティ。もう少し居たい。帰りたくない。楽しかった等のアンケートの結果を期待しました。

目的：

「選択できるアクティブ、楽しいショートスティ」

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 対象者：ショートステイ利用者（ユニット）
- ② ②具体的な手法：・作業療法やイベントの計画・セラピー・体操・環境づくり・職員・入居者とのなじみの関係づくり
- ③ 時間や期間：・6 か月
- ④ 手順：コアリーダーが個別ケアとは何かの研修を受けそれを伝達しました。
ショートステイ職員6人で自分たちの目指すショートステイを討議し意見を出し合いました。まず、職員の自分たちが行きたくなるショートステイってどんなの？に焦点を当めました。事前面接で一人ひとり情報収集よりアクティビティサービス等の計画を立てPEAP環境づくりの発想で居室のレイアウトを行いました。
- ⑤ 職員数や構成：ユニットリーダー1 名常勤 1 名契約職員 2 名非常勤 3 名看護師 1
- ⑥ 署間の連携：・施設長・相談員・他ユニット
- ⑦ 道具や費用：・作業療法の諸々・環境づくりの調度品・装飾品 合計 10 万円
- ⑧ 成果を出すポイントになった点：利用者と近づく共に楽しむ。
職員自身が行きたくなる施設の発想
リゾートホテルの発想と事前面接の情報収集
- ⑨ 施設のバックアップ体制：外部講師・他

《4. 取り組みの結果と考察》

アクティビティーケア等々から関わりを深めることで喜んでもらえ延長希望もありました。環境づくりの効果あり家族が集まり父の日を祝いそのまま同室に泊まるご家族もいらっしゃいました。

家族の信頼関係は利用者を中心に家族との連携を実践することでした。そして私たちは「やりがい」を見出すことができたのが何よりでした。

《5. まとめ》

取り組みにおいて利用者が楽しんでいただけることを目の当たりにすることができました。職員が少ないイコール＝サービスが行き届かないではない事の認識を共有しました。また何よりショートステイだけではなく特養の入居者の生活でも可能なことであることを施設として共有できました。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得ました。

《7. 参考文献》

認知症ケアのための環境作り・・・児玉桂子
個別ケア実現に向けたアセスメント研修資料・・・鈴木みなこ

《8. 提案と発信》

在宅にいらっしゃる要介護の方々を家族も利用者も安心し、喜んで利用できるショートステイを発信できたことは私たち職員にとって慶びでした。福祉業界に少しでもレベルアップに繋げることができたのではないかと思います。これを続けられるよう頑張っていきたいと思います。

【メモ欄】